



豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する

調査報告書

【ダイジェスト版】



調査の概要

調査結果より

1. 家庭の生活に関する実態と意識
 2. 地域の生活に関する実態と意識
 3. 社会や地域問題に対する住民の意識
- 住民の生活・意識とまちづくりの課題

三重県いなべ市

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、いなべ市が「豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくり」に向けての事業を進める上での基礎資料を得るために実施しました。意識だけでなく生活実態や生活要求も把握しながら、まちづくりの観点を踏まえた人権教育・人権啓発に関わる課題を検討するものとなりました。

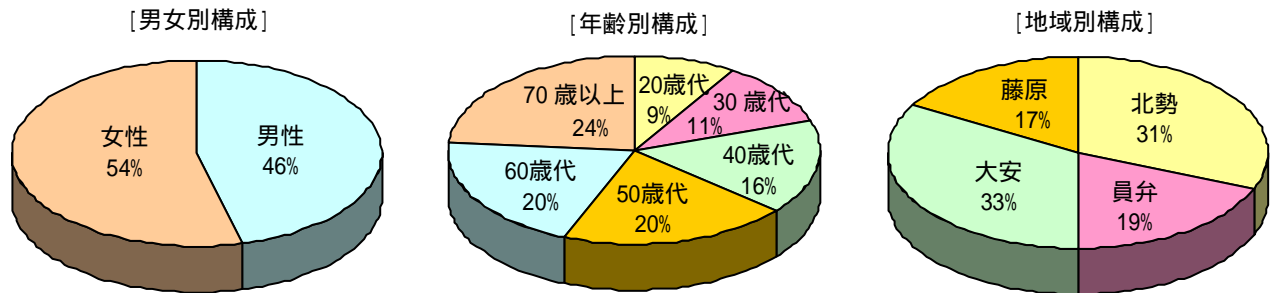
2 調査の対象・時期・方法

2006(平成18)年8月1日現在でいなべ市にお住まいの20歳以上の方36,143人の中から無作為で選び出した5,000人を対象として、同年9月、郵送による質問調査法により実施しました。

3 回答状況

1) 回答者数 3,158人(回答率63.2%)

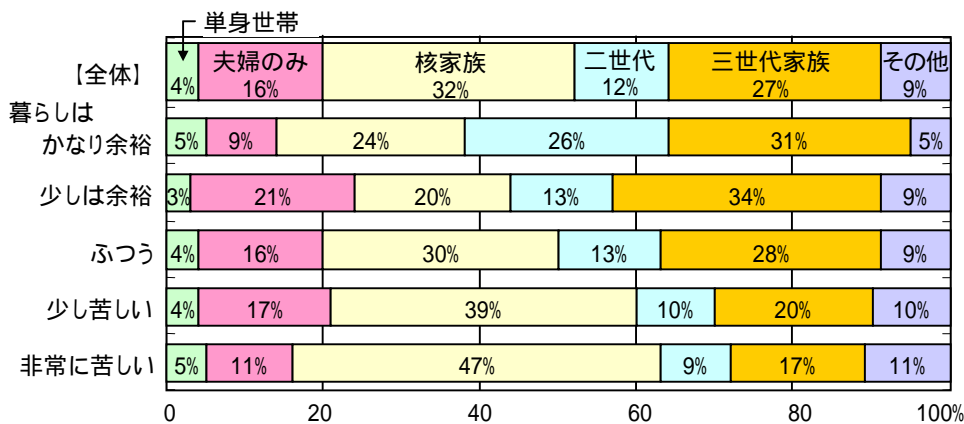
2) 回答者の属性



調査結果

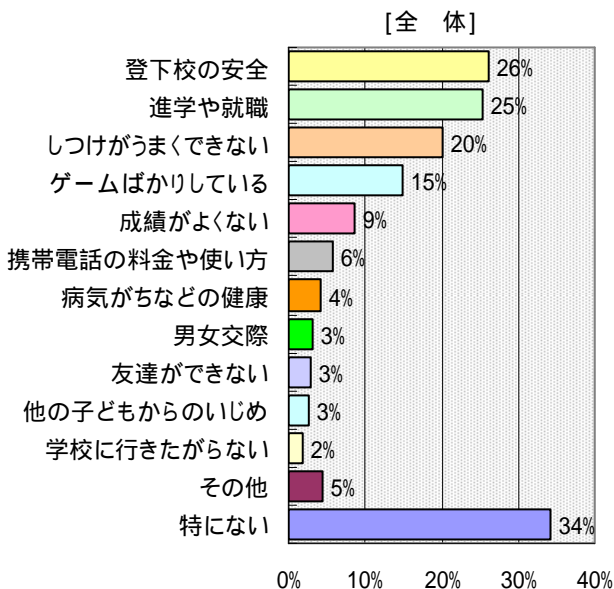
1. 家庭の生活に関する実態と意識

【問】あなたと同居している家族は、どのような構成ですか。



左のグラフで見られるように、全体の約4割が二世帯・三世帯家族となっています。
また、暮らし向きを伺う問いに「生活に余裕がある」と答えたのは二世帯・三世帯家族の方が多く、逆に「生活に余裕がない」と答えたのは核家族の方が多くなっています。

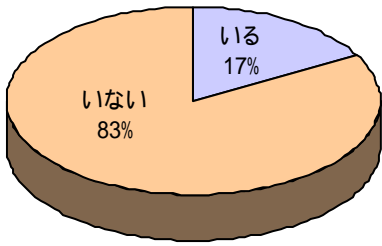
【問】子どものことで心配なことはありますか。(複数回答可)



	[年代別]					特にない
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
子どもが乳幼児	しつけ(30%)	登下校の安全(21%)	ゲームのし過ぎ(11%)	健康(8%)	友達ができない(4%)	43%
子どもが小学生	登下校の安全(37%)	ゲームのし過ぎ(24%)	しつけ(23%)	進学や就職(16%)	成績(11%)	28%
子どもが中学生	進学や就職(41%)	登下校の安全(28%)	ゲームのし過ぎ(22%)	しつけ(18%)	成績(14%)	27%
子どもが高校生	進学や就職(49%)	登下校の安全(22%)	しつけ(14%)	成績(13%)	携帯電話の使い方(12%)	30%

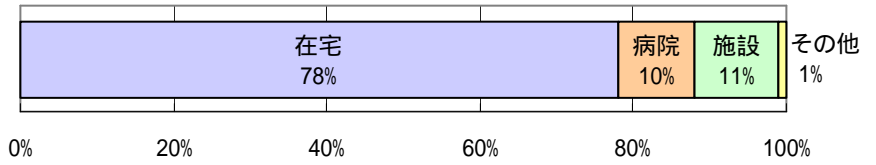
全体の約3分の1の家庭に18歳未満の子どもがいます。その中で子どもが乳幼児の場合は「心配なことは特にない」の比率が高く、小学生では「登下校の安全」が、中高生では進学や就職など「進路問題」の比率が高くなっています。

【問】あなたと同居している家族に、高齢（65歳以上）のために介護や世話の必要な方はいますか。

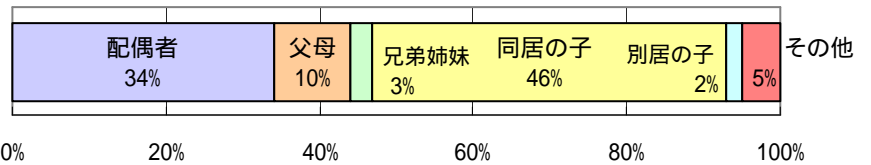


いなべ市では6分の1の家庭に介護や世話の必要な人がおり、その8割が在宅での介護となっています。そして主に介護をしているのは同居の子と配偶者であり、これらのことは、地域や暮らし向き別による大きな差はありません。

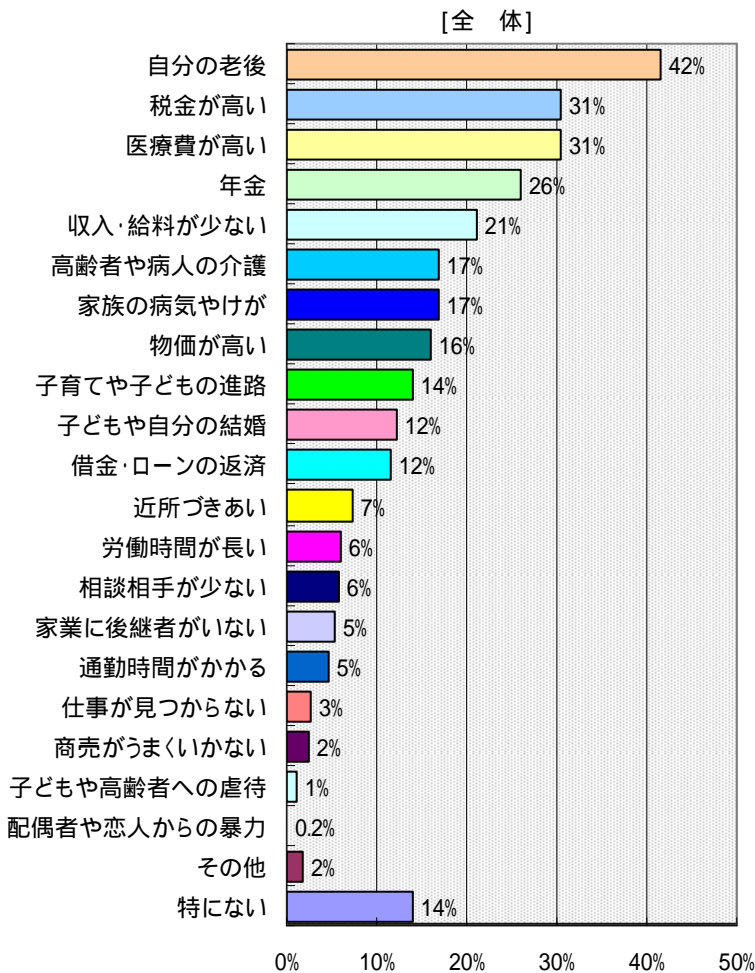
【問】その方は、どこで生活していますか。



【問】「在宅」の場合、主に誰が介護や世話をしていますか。



【問】あなたやあなたの家庭で、日ごろ何とかしなければならないと思っていることは何ですか。（複数回答可）



[年齢別]

	第1位	第2位	第3位
20歳代	収入が少ない (33%)	税金が高い (29%)	結婚 (27%)
30歳代	税金が高い (31%)	収入が少ない (30%)	子育てや子どもの進路 (26%)
40歳代	子育てや子どもの進路 (40%)	自分の老後 (33%)	税金が高い (31%)
50歳代	自分の老後 (56%)	年金 (36%)	税金が高い (33%)
60歳代	自分の老後 (53%)	医療費が高い (45%)	税金が高い (33%)
70歳以上	自分の老後 (45%)	医療費が高い (33%)	税金が高い (26%)

[暮らし向き別]

	第1位	第2位	第3位
かなり余裕	自分の老後 (22%)	子育てや子どもの進路 (17%)	税金が高い (17%)
少しは余裕	自分の老後 (36%)	税金が高い (26%)	医療費が高い (21%)
ふつう	自分の老後 (40%)	医療費が高い (28%)	税金が高い (27%)
少し苦しい	自分の老後 (49%)	収入が少ない (43%)	税金が高い (38%)
非常に苦しい	収入が少ない (59%)	自分の老後 (47%)	医療費が高い (46%)

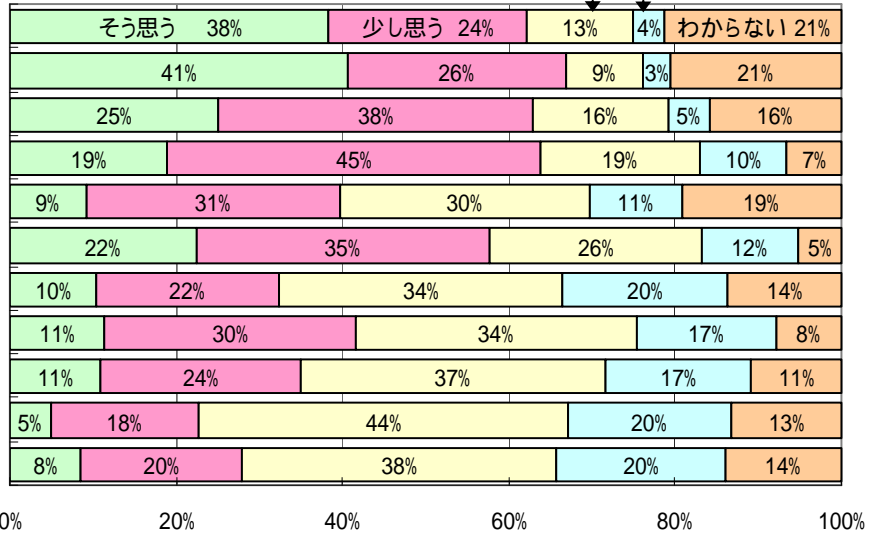
家庭における生活要求の特徴は、第一に高齢者問題です。「自分の老後」については、年齢が高いほど比率も高くなっています。第二は経済的な問題です。若年層では「収入が少ない」の比率が高く、年齢層が上がると「医療費が高い」の比率が高くなっています。また、「税金が高い」はどの年齢層においても高い比率となっています。特定の年齢層で比率が高くなっているのは、「子育てのこと」(30歳代・40歳代)や「結婚のこと」(20歳代)などです。

暮らし向き別では、「自分の老後」のことは暮らし向きに関係なく、関心が高くなっています。「税金が高い」「医療費が高い」は、いずれも暮らし向きが苦しいほど比率が高くなっています。

2. 地域の生活に関する実態と意識

【問】あなたが住んでいる地域で、次のことはこの10年間でよくなったと思いますか。

- 大学に進学する子どもたちがふえた
- 結婚する二人の意思が尊重されるようになった
- 社会的な活動に参加する女性がふえた
- 昔からのしきたりにこだわらなくなった
- お互いの人権が尊重されるようになった
- 道路・住宅などの生活環境がよくなった
- 働く場所がふえた
- くらしの面で利用できる施設がふえた
- 他の地域の人たちと交流する機会がふえた
- 住民相互のまとまりや助け合いが進んだ
- 地域の行事に参加する人が多くなった



高学歴化、自由な恋愛の前進、女性の社会的進出、古い慣習の克服といった社会的前進面が、いなべ市においても着実に進行しています。

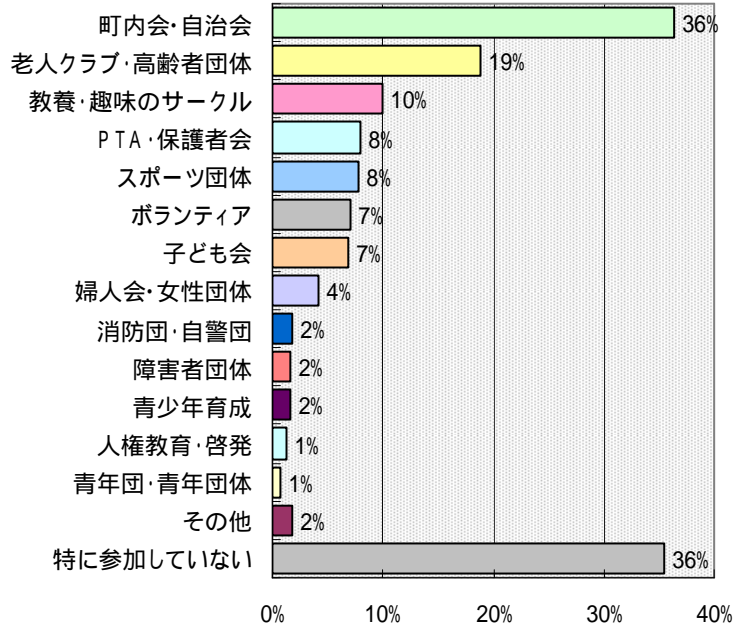
生活環境や施設など、行政施策に直接関連している項目では、全体的には否定的ではありませんが、地域による意見の違いがみられます。

住民活動に直接関係している、「他の地域との交流」「住民相互のまとまり」「地域の行事への参加」については否定的意見をもつ方が多くみえます。

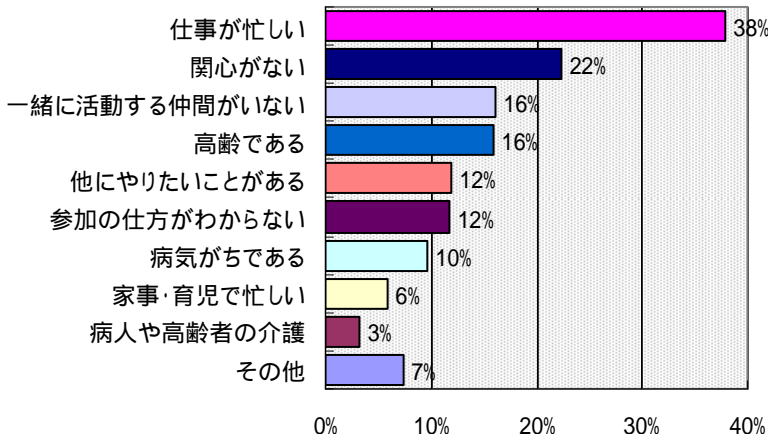
【問】あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。（複数回答可）

全体的には「特になし」以外の64%の人が、自治会をはじめとする何らかの地域活動に参加しています。年齢別でみると、20歳代の74%が「特になし」と答えているのが注目されます。青年の4分の3が地域活動に参加していないこととなります。

	第1位	第2位	第3位	特になし
20歳代	町内会・自治会 (8%)	スポーツ団体 (8%)	青年団・青年団体 (4%)	74%
30歳代	町内会・自治会 (41%)	子ども会 (27%)	PTA・保護者会 (24%)	35%
40歳代	町内会・自治会 (51%)	PTA・保護者会 (28%)	子ども会 (18%)	27%
50歳代	町内会・自治会 (49%)	ボランティア (9%)	趣味等のサークル (9%)	37%
60歳代	町内会・自治会 (37%)	老人クラブ等 (28%)	趣味等のサークル (16%)	32%
70歳以上	老人クラブ等 (57%)	町内会・自治会 (23%)	趣味等のサークル (13%)	30%



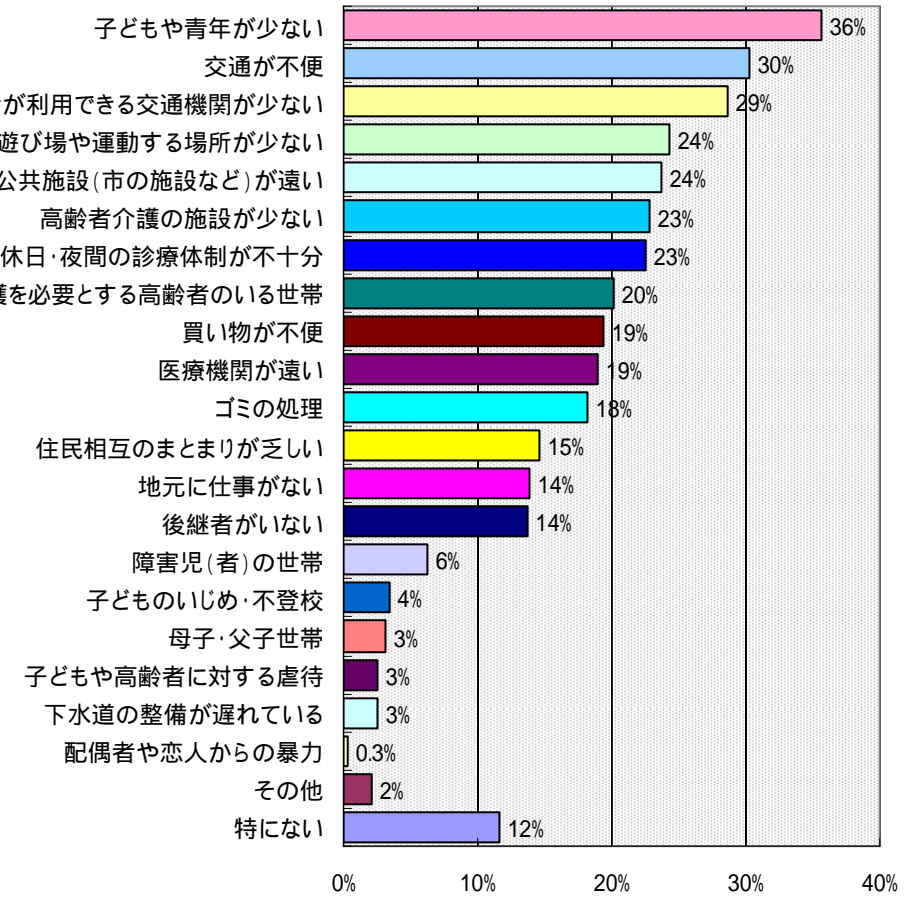
【問】上記で「特に参加していない」とした理由は？（複数回答可）



地域での活動に参加していない理由で、「一緒に活動する仲間がいない」「参加の仕方がわからない」が一定の割合を占めていることは、今後の働きかけ次第では参加の可能性があるということではないでしょうか。

【問】あなたが住んでいる地域で、日ごろ何とかしなければならないと思っていることは何ですか。（複数回答可）

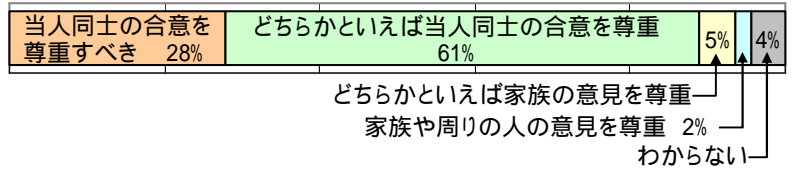
地域における生活要求としては、第一に、青少年が少ない、子どもの遊び場が少ないといった「青少年問題」、第二に交通が不便、交通機関が少ないといった「交通問題」、第三に「高齢者介護」、第四に「診療体制」の問題が挙がっています。年齢別でみても、「青少年問題」、「交通問題」はどの年代でも比率が高くなっています。地域別では、藤原地域において「高齢化の問題」と「交通問題」が、他地域に比べて大きな関心事になっているようです。



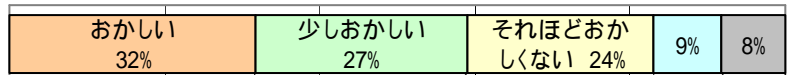
3. 社会や地域問題に対する住民の意識

【問】あなたの地域で、お互いを尊重しながらまちづくりを進める上で、次のようなことはどう思いますか。

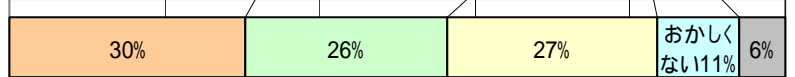
結婚に際して、いろいろな理由で家族やまわりの人たちが反対すること。



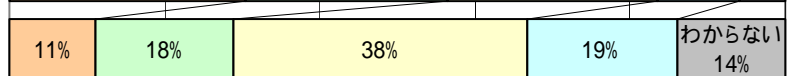
結婚の相手を決めるときに家柄を問題にすること。



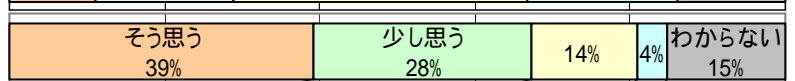
男女の仕事や役割に関して「男は仕事、女は家庭」「男は主、女は従」といった考え方。



自治会の役員に女性が少ないこと。



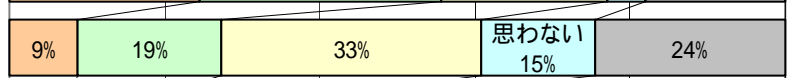
お互いを尊重する地域づくりのためには自治会の役割が重要だ、という意見について。



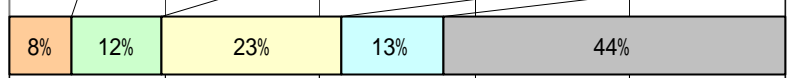
高齢化が進んでいる現在、あなたの地域では高齢者が大切にされているか。



あなたの地域は、障害者が安心して生活できる地域であるか。



いなべ市在住の外国人が増えつつあるが、あなたの地域は、外国人にとって住みやすい地域であるか。



「結婚観」では「当人同士」の比率が高く、「結婚の際の家柄へのこだわり」や「男女の役割意識」においても「おかしい」という否定的意見の比率が高くなっており、民主主義的な考え方が進んでいることが伺えます。しかしながら、「自治会の役員に女性が少ない」ことについては「おかしくない」とする意見が多く、「男女の役割意識」とは相反する結果になっています。

地域問題については、「高齢者」と「障害者」における評価が対照的になっています。地域で高齢者は大切にされていると思う人は多いのですが、障害者が安心して生活できる地域であると思う人は少ないようです。

1. 住民の生活要求 ... まちづくりの前提

家庭の生活要求としては、子どもの安全や高齢者の介護のことで多くの方が不安や限界を感じているようです。このほか、医療費や税金の高さに対する意見も多くみられます。

地域の生活要求としては、「青少年問題」や「高齢者問題」のほか、高齢者や障害者が利用しやすい交通機関が少ない、交通が不便といった「交通問題」、救急や休日・夜間などの「診療体制の問題」などが挙げられます。

2. 住民の地域活動とその評価 ... まちづくりの主体

まちづくりの主体である住民の地域活動をめぐる実情は、肯定的意見より否定的意見の比率が高くなっています。少なくともここ10年間は、地域活動が活発に展開されてきたとはあまり思われてはいないようです。

一方、全体の約3分の2の方が自治会や老人クラブなどの地域活動に参加しています。しかし、これからのまちづくりの主体である青年層は地域への関わりが希薄になっており、見過ごせない問題です。

3. 民主主義と地域問題に対する考え方 ... まちづくりのあり方への影響

民主主義的な考え方は進んでいます。しかし、社会的な活動に参加する女性が増えたという事実は認めつつ、一方で自治会の役員に女性が少ないことについては「それほど気にならない」というように、矛盾した表れ方をしているものがあります。地域にある具体的な問題をどう考えていくかが、これから重要になっていくと考えられます。

また、「人権」という概念が、「自分自身の人権に関する問題である」というよりも、「高齢者や障害者、外国人、ひいては他の人々を大切にすることである」というように理解されているのではないかと予測されます。

ダイジェスト版発行にあたって

誰もが心豊かに暮らせる民主的な地域社会づくりを進めていくために、昨年度、「豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する調査」を実施いたしました。みなさまのご理解とご協力のおかげで、非常にたくさんの回答をいただくことができました。誠にありがとうございました。

今後のまちづくりを進めるための貴重な基礎資料として、調査結果をまとめた報告書を昨年度末に作成いたしました。そして、みなさまにその概要をお知らせするために、このダイジェスト版を発行させていただきます。

それぞれの地域や会議等でこのダイジェスト版をご活用いただき、一人ひとりが大切にされるまちづくりをみなさまと一緒に進めてまいりたいと願っております。

三重県いなべ市

豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する調査報告書

ダイジェスト版

平成20年3月発行

いなべ市福祉部人権啓発課（〒511-0292 いなべ市大安町大井田2705 / TEL.0594-78-3508）

このダイジェスト版の元である「豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する調査報告書」は、いなべ市ホームページ（<http://www.city.inabe.mie.jp/>）において、次の手順でご覧いただけます。（PDFファイル）

[トップページ](#) [市の紹介](#) [市の計画](#) [「豊かなくらしとお互いを尊重するまちづくりに関する調査報告書」](#)